

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300122		
法人名	合同会社 カーム		
事業所名	グループホームわかくさ		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459-1		
自己評価作成日	令和3年11月4日	評価結果市町村受理日	令和4年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度オープンしたばかりのグループホームです。同じ系列のグループホームが同じ敷地内にあり、馴染みの方との交流が盛んです。施設内の長い廊下の両側が居室になっており、入居者の方をすぐに見渡せる空間となっています。またリビングから見える風景も山や畑も落ち着いた環境を作っています。施設内の廊下はバリアフリーで建物の外装も事業者名同様の若草色で分かりやすくなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が入居した後も「その人らしい暮らし方」が継続できる事を支援の目標としている。敷地内に同法人運営のグループホームがあり、お隣さん感覚で馴染みの関係を築いている。ホームの廊下、居室、食堂兼居間の床も畳敷きとなっており、利用者は昔ながらの生活様式を満喫することができる。生活の主体は利用者であり、出来ることは自分で行き、入居後に元気になった利用者も多く、家族からは、リハビリ施設のようだと言われている。法人は、職員の研修受講、資格取得を奨励し、介護力を高めながら、より良い利用者サービスの実施に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、皆が共有できるようにリビングに張り出している。	昨年度、課題であった事業所理念を代表、管理者、職員で話し合っって新たに作り上げ、目につきやすい場所に掲示している。新しい理念を共有し、申し送りなどで振り返りながら、支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には近くの神社まで散歩し近所の方とも挨拶を交します。近所に区長・民生委員もみえて声もかけてくれます。買い物は馴染みある店へ出掛けています。	コロナ禍の今、地域の行事は中止となっているが、散歩時には、利用者と住民が挨拶を交わし、買い物は地元の店を利用するなど、地域との関係を大切にしている。地元在住の職員も多く、地域住民とも馴染みの関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を書面会議にて実施、ご家族、区長、民生委員などと情報提供シアンケートをとり意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ感染のために書面会議で実施。気になる点についてはご意見を頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は書面開催とし、利用者状況、活動報告、感染予防対策、ヒヤリハット・事故報告等、連絡事項を含めて、関係機関や家族等に送付し、意見を求めている。家族の意見や要望についても把握し、意見交換の方法を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常の出来事で分からないことがあれば、市の担当者に相談等連絡をとっている。	行政とは、空き情報や困難事例等で報告、相談を行っている。地域高齢者の現状についても情報を得ている。また、新型コロナウイルス感染拡大状況やワクチン接種、対応方法について、相談しながら、より良い利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は安全のため夜間のみ。日中については玄関の施錠せず、見守りでのケアを行っている。	身体拘束廃止委員会も、今は書面開催とし、職員は、拘束についての勉強会を行っている。また、スピーチロックについても正しく学び、職員間で具体例を挙げながら、意見交換を行っている。現在、身体拘束が必要な利用者はいない。	法人として、身体拘束廃止委員会を開催している。マニュアルや行政資料に加えて、職員それぞれの意見や日頃のケア方法等について話し合った内容を議事録として残すことで、更により良いケアに繋がれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍のため、認知症実践者研修・初任者研修等ZOOMにて参加し、虐待防止について学んでいる。		

岐阜県 グループホーム わかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県内での研修等あれば今後参加予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者または計画作成担当者が説明を行なって家族が納得していただけるようにしている。また、本人にも契約前にホームを見ていただき不安なく入居して頂けるよう心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族にホームでの様子など話をしながら意見や要望を伺っている。電話でも連絡をとり意見等頂いている。	毎月のホーム便りには、利用者の暮らしぶりや行事の様子を写真入りで記載し、本人が自筆で言葉を書き添えた物を家族に送付している。面会時に、家族の意見や希望を聞きながら、病院への受診や衣替えなど、できる限り家族が関わられるよう依頼することで、利用者との関係継続を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞き運営に反映している。またカンファレンス時でも意見出来るようにしている。	管理者もケア業務を担当しており、日頃から職員の意見や要望を把握している。また、研修受講や資格取得を奨励し、モチベーションを高めながら、職員と共に、働きやすい職場環境作り、就業環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を作るために翌月の希望休を申請できるようにしている。また有給休暇についても職員全員が取得出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等研修会に参加するよう勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度よりグループホーム協議会に加入。同地域での会議に参加。情報を頂きサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と本人と面談し、生活面や身体面など聞き取りをおこなっている。また入居前にはホームの見学などしてもらい不安なく過ごしてもらえ環境をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から管理者・計画作成担当者が家族・本人と面談し入居時安心していられる環境を作っている。また入居してからでも相談できる体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、当初必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で暮らしているような環境を作るため食器洗いや食器拭きをスタッフとともに良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や美容院などの外出は家族にお願いしている。日頃の面会についてもホームにいつでもきていただけるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の家族に気軽に会いに来てもらえるよう援助している。また地元周辺の馴染みの場所にドライブにも行きます。	今も、コロナ禍ではあるが、感染拡大状況を見ながら、時間短縮や面会方法を工夫し、感染予防対策をした上で実施している。また、三密を避けながら、地元の馴染みの場所を巡るドライブなどに出かけ、利用者の気分転換を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のお茶出しなど入居者の方が率先して行っている。配膳・片付けなども全員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの問い合わせには柔軟に対応するように努めている。また別の施設への移動や在宅に戻る際は情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望をできる限り把握。少しでも希望に添えるように話しを傾聴する。また家族にも聞き取りし本人の希望通りの生活が出来るように努めている。	入居前のアセスメントを参考に、利用者の思いや意向を把握している。排泄や入浴介助等の個別ケア時は、利用者との大切な時間と捉え、安心して何でも話せる雰囲気作りを心がけている。新たに知り得た情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族より生活歴を聞き情報を把握する。また、本人との会話を通じて安心して生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録から毎日の様子を引継ぎ、本人の心身状態等をスタッフ間で共有、変化を記録に残し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	代表が計画作成担当者を兼務しており、入居当初から面識があり、ケアのあり方など話し合いしやすい環境になっている。またその話し合いにより介護計画の作成も出来ている。	代表はケアマネジャーでもあり、家族の訪問時には時間をかけて利用者の日々の様子を伝え、利用者や家族の希望を聞きながら、支援方法について話し合い、介護計画を作成している。また、利用者の現状に即した計画となるよう、適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子・発言等を生活記録に残している。その情報を介護計画に活かし実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が入居者の居室に泊まることや食事と一緒にできるサービスを行っている。また家族と外出しやすいような雰囲気をつくっている。		

岐阜県 グループホーム わかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は行っていないが、地域のボランティアの受け入れもし入居者の方が楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行にてお願いしている。また、かかりつけ医と看護師が情報を共有できるように連絡を密に取っている。	契約時にかかりつけ医について、事業所の方針を説明し本人・家族の同意を得ている。従前のかかりつけ医を継続する場合は、往診を受けたり、家族が受診に同行している。協力医と看護師が日々連携し、緊急時にも安心な医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気がつきがあれば、看護師に報告し対応している。休日に関しても24時間看護師と連絡とれる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している 退院時は退院時カンファレンスに参加し情報を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に 重度化した場合における(看取り)指針についての同意書を家族にいただいている。	重度化や終末期の対応については、入居時に説明し家族の同意を得ている。看取り指針も整備されており、利用者・家族の希望があれば、適切に支援が行えるよう、職員は研修を重ね、看取り介護について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の関係機関への連絡方法など見やすい場所に掲示している。玄関にAEDを設置し急変時の対応できるようにしてある。普通救命講習を受けた職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの緊急時連絡網を作り連携できる体制をとっている。災害時については2階の会議室も利用し、垂直避難も出来るようにしている。	年2回、夜間想定を含めて災害訓練を実施している。通報、誘導、避難場所の確認等、マニュアルを整備し、備蓄も完備している。災害時には、指定避難所ではなく、職員間で役割を分担し、2階を利用した垂直避難を行うとしている。	災害時において、地域住民の協力を得ることが難しい状況である。新型コロナウイルス収束後には、地域連携をさらに深められるよう、地元の避難訓練等に積極的に参加し、地域密着型の事業所として、存在をアピールする工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの声掛けには尊厳を損なわないよう心掛けをし、職員同士で情報を共有している。	職員は、日々の生活支援時に利用者が安心して会話ができるよう、傾聴に努めている。また、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応について、研修や学習会で学び、トイレや浴室、排泄用品等は、カーテンで区分けや目隠しをするなど、工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先し、本人の能力に応じた働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分をうかがい、体操や散歩など、無理なく過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びた時などは、家族に連絡し、馴染みの美容室など連れていってもらうようにしている。家族が本人の散髪などもされていることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食器洗い・食器拭きなど入居者が率先して行っている。また食事の盛り付けなども行い家事を楽しまれている。裏の畑では野菜をつかっており入居者に収穫などの楽しんでもらっている。	職員と利用者が、買い出しから調理を一緒に行うなど、利用者の生きがいを支え、残存機能を発揮できるよう支援している。対面式のキッチンでは利用者も動きやすく、個々に楽しみながら役割をこなしている。ホームの庭で育てた野菜を収穫して食べることも、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立をパソコン内に記録しておき、いろんな献立を考えられるようにしている。入浴後は必ず水分補給をし、体調管理できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアにはスタッフが洗面台の前で見守りをし必要な場合は介助している 夕食後には義歯の薬剤洗浄を行っている。		

岐阜県 グループホーム わかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	清潔で過ごせるよう汚れ等多くある方についてはパットの確認をし、交換をうながしている。またトイレの排泄パターンを把握し、トイレの声掛けも行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。現状を維持できるよう、パッドとの組み合わせも工夫している。また、排泄用品の昼夜の使い分けについても職員間で話し合い、利用者の状態に合わせて選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便間隔を確認している。食事ではヨーグルトなど提供して便秘予防の工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回決めているが、本人の希望などで変更したり日時を決めている。また湯の温度や湯量など本人の希望に応じ気持ち良く入れるように支援している。	週2回の入浴日は、利用者の楽しみとなっており、個浴でゆっくりと楽しんでいる。浴室は広く、介助もし易い造りである。利用者の体調や状態変化に応じて、足浴やシャワー等でも支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行き来出来、食後や昼寝も自由に行っている。就寝時には巡視をしながら部屋の空調を調節するなど良眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理をしているが職員全員が服薬内容、身体状況を把握できるように情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の準備、後片付け・畑仕事等、一人ひとりに役割を見つけ、充実した生活が送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、季節に応じて花見などのドライブにも出掛けている。	コロナ禍にあっても、感染拡大状況を見ながら、感染予防対策をした上で、近隣を散歩したり、ドライブなど思い出の場所に出かけるなど支援している。外出を兼ねての食事や、花見や紅葉狩りなど、四季折々の行事を計画し支援に取り組んでいる。個別の希望は家族に依頼している。	

岐阜県 グループホーム わかくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、個人でお金を持ちたい方は現在ない。家族より希望あればホームの金庫に保管し出納帳にて管理できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている。家族の方に手紙を書いてもらい、それを手元に置いておくことで安心して過ごしてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、玄関・扉を開放し、外の空気・光を取り込んでいる。温度調整なども体調に関わってくるので特に配慮している。時期が分かるように大きな手作りカレンダーを貼りだしている。	食堂兼居間も畳敷きであり、利用者も安心して移動ができる。季節の花を飾り、手作り作品を掲示している。安定感のある椅子が設置され、座ったまま、大きな窓から外の景色を眺めることもできる。昼間は、ほとんどの利用者が、居室ではなく共用スペースでおしゃべりをしながら、洗濯物畳みをしたり、掃除なども一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、居心地よくリビングで過ごせるようにしている。また、疲れた時などは居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使用していた馴染みのものをもってきてもらい使用している。ご家族様の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	居室も畳敷きであり、クローゼット、ベッドが置かれ、訪問者も安心して過ごすスペースもある。和室の生活に慣れた利用者には好評である。使い慣れた小物や思い出の物を置き、自分好みの居室作りで居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはネームプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		